

誰にも知らされない日本の死刑執行

年末の死刑執行

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）
東京都荒川区南千住 1-59-6-302

昨年、12月27日、法務省は2人の死刑を執行しました。

東京拘置所でも朝倉幸治郎さんという66歳になる方が処刑されました。

日本では、年末が近づくと必ず死刑の執行があります。12月、国会が閉会したあと、いつ執行がなされるのか、わたしたちは不安な日々を過ごしてきましたが、まさか、仕事収めの前日に執行をするとは思いませんでした。

★ ★ ★

日本の死刑はいつ執行されるのか、死刑囚本人にも、その家族にも事前には知らされません。

ある朝突然、刑場に連れていかれるのです。そして執行のあと、はじめて家族に連絡が入ります。「遺体の引き取りはどうされますか？」と。それから、マスコミ各社に「本日〇名の死刑を執行した」というFAXが流されます。それだけです。

★ ★ ★

東京拘置所で執行された朝倉さんは控訴審の途中から、外部との面会や文通を拒否していたため、どのような思いで、過ごしていたのかわたしたちには知ることができません。

名古屋で執行された長谷川敏彦さんは、被害者遺族の方が本人との文通や面会をかさねながら、「死刑にするより、生きて、反省して、償ってほしい」と訴えていました。また、その上申書をもとに恩赦の出願を準備しているところでした。

★ ★ ★

今、世界中で死刑廃止を求める声が高まっています。報復的な刑罰によっては犯罪が減少することはなく、いっそう「暴力」がまかりとおる社会の土壌になってしまうだけだという反省があるからです。韓国をはじめ、アジアの諸国でも死刑を止めようという運動が広がっています。日本の死刑廃止議員連盟の会長に自民党の亀井静香氏が就任し、死刑廃止を堂々と主張されているのもそのひとつのあらわれでしょう。

しかし、死刑は執行されました。なぜ、こんな年末に処刑しなければならなかったのか。年に一度は死刑を執行して、死刑制度を存置する、という法務省の姿勢を貫くためだけだったとしたら、それはあまりにも無意味で、恣意的で、残酷なことではないでしょうか。

わたしたちは東京拘置所に対して、法務省からの指示に唯々諾々と従うのではなく、現場からの死刑執行停止、死刑囚処遇の改善の声を逆に法務省に対して挙げていくことを求めます。

[死刑執行抗議集会のお知らせ]

誰のための死刑執行か

遺族が語る死刑執行

日時 1月28日(月) 午後7時

会場 砂防会館(地下鉄永田町4番出口) 別館3階「立山」

参加費 500円

主催・死刑廃止を推進する議員連盟

死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90

※死刑制度に反対する多数の国会議員や被害者遺族の方々が発言されます。ぜひご参加ください。